長門明倫館春秋釋菜儀注　完

萩圖書館
部門 二乙六
番号 一二〇
冊數 一

釋菜儀式 役附

一 初献　一人

一 亜献　一人

一 終献　一人

一 儀式官　此役ニ専取扱
御祭一通り此御法人有り諸事　一人

一 典儀　此役ハ式事を以テ次　一人

寄贈

儀式方にさし添ゆるを清祓し
堂上にて讀役進み進の禮儀を
勤しむる役なり

一 祝官
迎神の詞告文祝文送神の詞を
讀幣を捧げ福酒胙を捧げ幣帛
祝文を座次に置くことを掌る
役なり

一 助奠役　　三人

献官爵を洗ふときに爵盤を執りて至り
爵を捧げ酒樽の所にいたり又爵を
捧げ神前にいたり献官に捧げ
降りて配座の爵にいたり酒を
注ぎに神前に持参し献官に
渡す役なり

一 司樽役　　一人
酒樽の所にて長樽盖をとり司る役なり

一 廟司　　一人

一神殿所々廟中の掃除等
一切掌る役なり

一菓法　十人
菓子をまうけ汁照をとゝのへ菓実幣帛所
て饌をとゝのへ三蔵所にて　御頂戴の
御酒醴をも添へ饌を撤し送神
の後所々菓子をたゝみ照をも於所まで
役なり

一壽盤役　一人
壽盤所小居盤器を司る献官爵
を洗ふ水をくみ水と清布巾を出次
役なり

一斎厨役　一人　御膳吏頭に属す手数人
幣饌の調饌法乃ことごとく一切
斎厨にて事を司る役なり

一木工方　一人　御造営奉行　大工力者数人属之
修理かゝり屋根作事塗垣の用意
廟庭掃除等の奉行なり

一講師　一人
徹饌済て後徹幣ニ而出仕
講書まて此役計り
以上二十又人

二月釋菜儀注

一正月十二日學頭判事役ニ而議し
二月内丁日其外吉日を二日擇し
書付を以學頭記録所ニ而釋菜出頭え
小紙ニて伺之事

一同日判事役より養老之事年元之事
并釋菜役人之事　此釋菜ニ出席之
之事

一祭日十日前献官以下諸役の人柄記

一　実人ニハ以代官之事

一　役人相極ルニ御勝手頭ハ供物ニ外人
用ヒ物相調用意仕ル事

一　祭主ハ前日ゟ御勝手役学頭、典儀、賛者御
役人ゟ其日判事役相勤御勝手頭、下役人
幷ニ学頭ニ奉集シ前日意見致候
但堂廻リ破損乃修理ニ及ヒ候ハ、其儀
掃除等之御祭器ハ点検幷供
物等之事支ニ而御沙汰相成ル事

一　祭より前四日ゟ御勝手頭醮斎盡
斎ハ酒を御法度ニ候事

一　祭より前三日ハ献官ゟ下学頭合
此役人潔斎いたし候事
但散斎二日ハ常ニ不相替但
不弔喪不問病不聞音楽刑
罰の御沙汰ニ不加穢悪ニ濁穢ニ此
事共ニ致候、致斎一日ハ祭此
法の外諸事相止酒葷

ニ可致候事

右潔斎之儀ハ兼て二月社参
神ニ準し潔斎ニて相勤候様
御伺之上相極候迄

一 祭前日諸役人学館ニ會集し
儀式前ニしらへ有之事

一 同日儀式役并御社奉行所
ニ外掃除ハ役人之者ニ申付堂内
堂外掃除ハ下役ニ而堂坂

祭ニ付て常帛を埋し
役所ニ而之かしおく事申渡候事

一 祭之日前学頭役祝文之案書
相調儀式方江指出し御奉書ニ清書
之仕祭前日儀式より祝官
人江相渡可申事
但祝文ハ延喜式諸式釈菜之
成文を用ひ
御宮御法號并諱相載いたし迎神
送神詞ハ祝官自身ニ而認

之礼祝詞奉仕る是又霰宮ニ於而
献文を用ユ
附り御当年ニハ祝文江戸ニ而
之を作ル正月之内ニて是を奉ル

一 同日御膳吏頭并膳夫ニ至ル迄調膳
物の料理を致し御酒を奉ル

一 神殿漆器ニ色紙を貼り
御家當日

一 諸役人未明ニ勤の事

一 翌日神殿を掃除し燭をともし候事

一 御膳吏頭并膳夫ニ至る迄を認め持運
ニ酒を給ひ饌を奉る然る後とう
其供物ハ皆ニ役者并浄家
ニ此皆を給はし多事無一切の式を
用ひ其後供物もとめられ祝官之
合見ん令ム事

一 酒樽所 之宮の間ニ
酒ハ設席 祝文

御清之福酒の爵福酒ハ祭りの酒にて神酒也坏盤
を卓ニ加へ東側ニ設之中央ニ於て
奇案を設く南北ニ西南の隅ニ爵盤
胙俎を設け醴同ニ間西の切縁ニ盥洗ニ
を設く稀西の方北ニ乃切縁ニ毛瘞
幣物を望瘞位二寸是ハ幣帛を埋む處にてまつる穴
門ニ間南北縁通りニ配張を設く
右何れも日ニ先祭ニ相調候ニて献官
并神用の着之外ニ東西廂ニ備へ置

此ら用ゆ
一日ニ先祭当日朝ニ用意相調へ儀式
整ひ本ニ案内ニ付出御の節中門ニ
入中門ハ先祭ニ乃ことし庭上の間より伺候の
庭ニ就ニ見廻の役ハ夢番ニ伺候し
爵盤ニ此役ハ爵盤ニ伺候し祝官
介者ニ庭上の方より東側上北ニ西ニ極
際ニ就西面し但球典儀ハ同し
間西側ニ就東面し奠供の節ハ

西の間北より南へ列二座し其傍ニ
御作事奉行御判事役御儀丈
頭座に就く何も東面
奠幣 幣帛御進の御出

一 列座定りて典儀座を立中門にて
出献官に案内を申し帰りて本座
に復す献官中門に入 以後儀式了て中門より出て
平座後す庭上の西の中央に北面して
最初北より南へ一二三と次にて

洗手完りて帳幕を起て幕と手洗ヲ
帳とりまきて本座に復す祝官進みて
て神前に至り延神の詞をとなへ
ありて又もと鏡本座に
以下伏拝す 延神之儀あり 詑て初献献官
立置洗手所にて手とあらひ巾と
ぬくひ拭ひ入りて本坐に詑祝官
立幣盛をとり西面して立献官本坐
立て神前に進む 此とき西より東へ青葉より西へ通る

祝官従之献官の右ゟ東より西面して
幣篚を受とらす献官是を捧まて神
前に供し北面して伏拝次て階を
下り本座に復す祝官同しく本座に
復す

常例告文成周ひするときは
幣を奠し拝して退く

進饌

進饌は供物を進る儀なり

右奠幣之間執饌者鋼爵を立て饌厨
入進饌乃司及祝官座に復してのち
出仕立て壱と挟く伐出ぬ儀式の如く東西の間

小立て進饌を合す傳供之立て供物を
捧て神前に上て並べ供ふ第一正座
第二東配復聖公第三西配守聖公
第四東配述聖公第五西配亜聖公也
饌供の次第は第一籩第二簠第三
籩第四豆第五俎と次第小進より正
座ゟ初て簋を据て次第に供ふ
夕すり簠簋は蓋をとりて次第にして
供へ籩豆は蓋をとらず供す

供へ終りて儀式後ニ示す事ニ継す

初献

席定りて典儀声して唱へ終れハ初献官
座を起て盥洗所に到り手を洗ひ拭ひて
爵盤所に至る介者起て從ふ爵盤を
案上に坐す爵盤者爵を篚に進む
出す献官西面して之を洗ひ爵盤者
手をかくる献官水を受て爵を洗ふ上

爵盤者巾を持くる献官受て之を拭ひ
介者に渡す共に酒樽所に到る献官爵
を持る司樽者冪を挙け醴齊をくむ
献官うけて介者に渡し供に神前に到
る献官爵を受て跪ひて案上に奠す
少し退き拝伏す此時に附奠（介者の為後之）
爵盤者に到り献官も儀のことく爵
盤を持ち酒樽所に到り醴齊を酌む
神前に到り献官西面して東配復聖公

小奠す　（正座の儀のごとし）　次に守重公遠重公
亜聖公等の儀のごとしに奠すこれも
御典侍役持参して献官之を請取て北
献官奠し終りて　（御奠八脚座に復す）　正座の前に北
面して座す此時祝官祝板を持て神前
に到る献官の左に跪き東面して祝文
をよむ讀了て献官拝伏し降りて
堂の間東側に西面して座に就く祝官
祝板を案上に置て本座に復す

亜献

座定りて典儀起て香を焚て退く亜献
官も起て盥洗所に往て手を洗ひ爵盤
所に往て介者座を起て又行て亜献に爵
を渡す儀神献の如し介者に渡す亜献
捧爵所に往て亜献爵を盃て出す司樽役
第二樽盞を注く亜献受て介者に
渡す去神前に至り亜献爵をとり跪て
正座の前に奠し少し退て伏拝す

次ニ助奠畢て神獻の例の如くして
助奠する酒ハ第二樽盃齋酒なり次ニ介
神獻此助奠と同し亜獻終ニ爵哉
取て四座ニ奠する儀是又神獻
の例此如し記て三座北前ニ北面して
拜を行ひ下りて堂北間神獻拜ニ終

終獻

座定りて出仕起て爵哉捧て退く
終獻官起て洗所に至り手を洗ひ

爵盤を前ニ到り介者に盞を授て又継く爵を
取りて儀亜獻此如し此爵を介者ニ渡す者
酒樽所ニ行て献官爵哉を取て出す司樽
酒を注く酒ハ第三樽此清酒なり献官
爵を介者ニ渡し其ニ神前ニ上る献官
爵継ぎて西座北前ニ奠する儀亜獻の如し
其ニ助奠最前北通りニ助奠する酒
ハ第六之樽なり献官奠し終りて西堂北
前ニ北面して拜し下りて堂北間の

亜献ノ次ニ飲
受福〔祠官等年ニハ受福ノ儀略之終献／終リテ次ニ撤饌ニ移ル〕
座定リテ祝官起テ卓上ナル福酒爵ヲ
取神前ニ到リ正座第一爵ナル清酒ヲ
移シ入降リテ中ノ座ニ出テ北ニ向テ跪ク
初献官座ヲ立チ香案ナル東ニ北面シテ跪ク
祝官立テ献官ナル右ヨリ西面シ跪キテ
爵ヲ授ル献官受取テ卓之上ニ置テ
祝官又起テ卓上ナル受胙盤ヲ捧

〔紙ニ包テ添加ヘ〕タルハ神前ニ到リ正座ナル黍稷
飯ヲ合セリ盤ニ入蓋ヲシ捧テ階ヲ降リ
前ニ出テ献官ニ授ス献官受取テ
卓上ナル福酒ト一所ニ並テ置テ香案ノ
前ニ居テ伏拝シテ本座ニ復ス又終
献テ爵ノ福酒ト飯ヲ一ニ移シ福胙ト
共ニ二種ヲ入レテ二束ノ厨役ニ授ス次撤
厨役受取テ神酒ノ缶ニ入ル箱ニ入レ
小封シ置

但辛丑二月の祭ニは御酒頂戴仕
し故社官共ニ神前ニ到り西ニ而
第三爵ヲ取テ下居返し来り更ニ盤ニ置
き先ツ祝文ヲ西ニ置テ第二爵ヲ取テ

右者
嚴様御頂戴之料なり　御無沙汰
御名代　御城江持参なり
受福の御酒ニて
嚴様御無沙汰なく　刻限先達て儀式

より御案内ニ而上之座唐戸并関東之名代
御座江参り案内之席ニ御作り並御無沙汰
之節は献官御戴帽備へ下ニ而御祝詞ニ参る
之儀ニて御拝ニ而御取て東の名代御着座
養老之年之縁ニ通り着座之御座
計ニ而御拝有之御上之社官中禪
等役人共ニ被出而御通り
又者御中門の内庭ニ而御縁ニ御載き
百姓町人共老人共被出而御通

二番目之者より御盃を頂き然ハ後ニ子息へ御
名代ニ茂盃ニて福酒盃ニ頂上ニ福
酒盃ハ捧持之人用ひ両人共に同じ
持参ニて御社前の者共参詣之上
渡し二番御名代も盃の上御神前
御装束にて御頂戴、夫より御拝
名代子息も盃ニ帰り神前之
附ル御鳥居の辺ニ御参詣人神殿の上
卓并燭に灯をかり

但御鈴振りて後ハ唐戸を閉
御扉を閉ち後ニ御幣之撤饌之
撤饌
被捧御山之節ハ後老人共ハ伴長
所ニ退去ニ付室中最前之如く飾り
諸役人各位置ニ着す夜定ニて曲、
候起て本社焼て退く并供物退
神前饌供物次第ニ撤す ハ幣と退振
退饌此如ニて退く斎廚ニ入儀式

右典儀ハ北間ニ立つて合図あり御
膳夫取斎厨ニ入る支那之神酒
祭終りて後總中頂戴有り 御菓子ハ下さる さいし絹 子ニかけて出ス

總引拝

右徹饌終りて後列坐の所ニ於いて
當番の前ニ出て拝を行ふ
終て御ニ門所之庭内の西之
拝有之候事

講釈 孟子滕文公上篇 自設為庠序学校至小民親於下迄講ス

總拝終りて總中北ニ出て列坐ス
講釈有之儀式常ニ出で東北廊下ニ
際して南面して講釈見座之経
献ル如者の後出ず経て文納之
右徹饌總拝講釈ハ初献官登
城ニ付間ニ行之有り
望壓
御家代帰宅之上日暮前ニ三献以後前

庭の通并間東側に着座す此役人
前の如く着座定りて祝官神前ニ
斜ニ蹲踞し此時御幣の奉
座坎ハ力者持出て寄長坎ハ傍ニ
備置も一 着襟各鍬一柄ヲ添え 典儀立て三献官
陳案前之御の間北の側ニ北望座
伏ハ續上ニ列坐す御幣の奉行
同上列坐し且又奉する祝詞總上
よくし幣帛を箱より出し持く

庭上より坎に並力者座之上に土器を並 しき添り
御幣ハ側に 祝文ハ齋麿に送りて神饌し
添りて三献官事北側に出最初に通
列坐す 御役人（皆最初北通）列坐す祝
官進んて神前に斜りし送神北祠
を唱へ下りて番を鑽て地跡ニ
復す其時献官以下総一同ニ伏拝
す貢其猶進んて幣を奉行し小座
を無備をなし下る廟司番案を

辞壇廿四年以道度之待開禮
畢

仲龝釋菜儀注

新舘

仲秋釈菜儀注

早朝祭者神廟ニ入テ西壁ニ座ス則ハ献官起テ東階（東）
ニ入リ服ヲ改ム典儀東階ニ到リ献官ヲ迎ヘテ是ヲ
引テ堂ニ登リ前庭ニ北面シテ立ツ献官席ニ就ク
典儀祭者北面ヲ率テ祭者ハ献官ノ後ニ重行シ
西東上シテ立ツ座定テ典儀起テ手ヲ拱テ先座ニ
復シ献官再拝揖拝ヲ唱フ献官再拝ス祭者皆
拝ス訖テ（典儀就座ヲ唱フ）祭者起テ各其位ニ就ク座定テ（又典儀褰帳ヲ唱フ）褰帳
者二人起テ壇ニ登リ戸内及神龕の帳ヲ褰ケテ
退ク典儀起テ手ヲ拱テ本座ニ復ス（典儀近前ヲ唱）従官案上

北面
神詞を読り壇に登り配位前に至り西面して跪き
読み終て香炷案の下に復す奠供者二人起て
堂上の外に出て履を脱し神前に至り左右に分立て
座す典儀廟司監厨斎郎神厨に入て饌具を
監視す斎郎饌を進む
奠供者二人左右より分て手を供へ正位奠し
東方の奠供者東配復聖公述聖公に供へ西方
北 奠供者西配宗聖公亜聖公に供へ次に東方北
従祀周元公程正公邵康節に供へ西方の従祀程
純公張明公朱文公に供へ訖て典儀廟司監厨等

（朱）典儀揖叙を唱ふ
（朱）典儀又奠供を唱ふ
（朱）進饌時 斎郎西階より進む

堂に登り本座に復す次に典儀起て香炷焚く
献官起て洗所に到り盥洗す執事者従て水を沃き巾を
授く献官手を拭ひ爵盤の所に到て爵盤者案上の
爵を取て之を授く献官爵を受て之を洗ふ爵盤者
巾を授く献官爵を拭ひ執事者に授け酒樽所に
到り爵を捧て少しく進む司樽冪を挙け犠樽の北
面し酒を酌む献官之を執事者に授け壇に登る執事者従ふ
登る献官壇上にして爵を取り配位案上に奠し
少し退て再拝す執事者壇上より爵を取り犠樽の
酒を酌む献官の如くして壇にのぼり献官に授く

（朱）本座に復す後典儀又唱ふ 又献官盥洗を唱ふ

く献官取て東位復聖公に献す宗聖公述聖公亜聖
公に献する事皆此の如し介者庭に降て助奠三人
起て爵盤を取て爵を洗ひ象樽の所に詣て献
官に授く献官受て正位に就く四配の助奠手を洗
爵し献まるを待て献官再拝す助奠罍尊の酒を
酌は亦此の如し両従祀の爵は下樽の酒を酌く助奠
之を献す畢て献官東方従祀の前に至て各伏拝し
西方従祀の前に至て各伏拝し畢て正位前に北面し
跪く祝官起て案上の祝文を取り壇に陞て献官北
左に東面し跪て祝を読む畢て本座に復く献官再拝

し降て中庭西面の位に就ク諸生楽を奏す其儀
祝官介者等皆く西階より進み生ち楽器を前にし
陳設して楽一曲を奏す畢て楽器を取去て
復し奏者皆位に就く事亦此の如し徹供者二
人庭中の外に級を従し壇に上して左右より分れ進み
其儀廟司盥厨齋厨皆西陛より入ル徹供者膳を徹
する事進膳の時に同し正位畢て四配両従祀に
及ふ齋郎膳を伝へて神厨に入ル終て献官并参者
前堂に北面して拝する事初の如し其儀起て香
を焚き祝官進んて送神詞を読む其儀畢て退く

献官再拝シ祭者皆拝ス褰帳者壇ニ登リ帳ヲ垂ル
燭ヲ消シテ元ノ座ニ復ス祭者座ヲ起チ東廂ヨリ
退ク献官堂ヲ降リ東廂ヨリ入テ服ヲ脱シ礼畢ル

儀節

典儀相迎
典儀焚香
就坐
迎神 焚香
典儀焚香
祝文
徹供 解剱
典儀焚香
總拝

献官升堂
献官再拝
褰帳
奠供 解剱
介者
献官西面
齋郎徹膳
送神 焚香
垂帳徹燭

祭者北面
總拝
典儀焚香
齋郎進膳
献官盥洗
奏楽
祭者北面
献官再拝
起坐